

教養科目

藝大

リベラルアーツ

ガイド

GEIDAI LIBERAL ARTS
GUIDE

2024



TOKYO GEIDAI

藝大  教養科目
リベラルアーツ
ガイド GEIDAI LIBERAL ARTS
GUIDE 2024

藝大リベラルアーツ（教養科目）ガイドの使い方

本ガイドには本学で開講されている『(一般) 教養科目』が掲載されています
各科目の授業内容は本学 WEB サイト上にあるシラバスを参照してください

◆履修に際しての注意事項

- ・科目によって履修対象が異なります。本ガイドに掲載されている科目の中には、美術学部生あるいは音楽学部生のみを履修対象として開講している科目もあります。
- ・本ガイドに掲載されている科目が教育課程表(カリキュラム表)のどの科目区分に分類されるかは、科・専攻によって異なります。

例) 美術学部生にとっては「教養科目」となるが、音楽学部生にとっては「自由科目」(卒業・修了要件単位とならない科目)となる科目がある 等

- ・履修に際しては、各自が「履修案内/履修便覧」「授業時間割表」「シラバス」等をよく検討し、責任を持って計画を立て、必要な単位を修得してください。不明点がある場合には教員室や教務係に問い合わせてください。

2024年3月時点の内容のため、以降に変更される場合があります。

芸術を修めるためには、それぞれが学ぶ専門だけでなく、美術や音楽それぞれの分野として極めるための学びや、デジタルを代表とする新たな表現手段の獲得、そして、芸術そのものを成り立たせている社会や環境への理解が必要となります。

藝大には、このような多岐にわたる必要な学びに応えるため、ほかの大学と較べても豊富なジャンルの教養科目が開講し、アップデートを続けています。

専門だけではない、世の中を探求するために必要な教養となる学びを「リベラルアーツ」といいます。本学では、ひとりひとりが表現することを通じて、社会の中でチャレンジするみなさんに向けて、科学や文明の広がりや深みの探求の入り口となる学びの体験から、それぞれの専門だけではない幅広い分野の芸術や創作、その思索やノウハウを獲得できる授業を開講しています。さらには、人工知能や仮想空間といったデジタルで拡張する表現や、社会の諸課題や芸術への実装といった、これからの時代で活躍するためのコンセプトや指針や、道具となる実践的なスキルを得られる機会となる授業も多数用意し、それぞれの分野の第一線になる先生から得ることができます。

あなたにとって、必要なりベラルアーツを会得できるように、本ガイドでは5つのキーワードを設定して、幅広くかつ藝大らしいディープで糧になる教養科目から学びたい授業を選ぶサポートを提供します。



教養科目は、専門だけではなく、多くの授業は学部をまたいで受講ができるようになっています。日常では、なかなか一緒になることがない、他の分野の学生、それも藝大生らしい多彩な面々と学ぶことで、知り合いができることが多くあります。分野を越えた関係ができるのも、教養科目の魅力です。

2024年版の特集

学びとこれからの幅を広げる藝大各センター

新しい大学生活を迎えるにあたって、これまでとは違った新しい生活やステージを迎えています。環境の変化や多くのしなければならぬこと、そして困ってしまったことに対して、藝大ではさまざまなサポートとなる相談先になれるセンターを開設しています。
本ガイドの合間に、そんな頼りになる各センターについての紹介を用意しました。一読して、こころに留めておいてください。

INDEX

テーマ

● 教養を磨く ● 次の時代の知識を得る ● 芸術の広がりを知る ● 社会と共創する ● デジタルの表現をみにつける

No.	テーマ	科目・コンテンツ	ページ
-		ガイドの使い方	2
-		INDEX	4
0		初年次教育授業	6
1	●	先端知を識る 異分野横断オムニバス講座	7
2	●	アーティストのためのダイバーシティ&インクルージョン入門	8
		学びとこれからの幅を広げる藝大各センター グローバルサポートセンター	9
3	●	キャリア設計演習	10
		学びとこれからの幅を広げる藝大各センター アート・キャリアオフィス	11
4	●	アーカイブ概論	12
5	●	応用音楽学入門Ⅰ・Ⅱ	
6	●	音楽文化史Ⅰ・Ⅱ	13
7	●	音楽療法Ⅰ	
8	●	音楽療法Ⅱ	14
9	●	音響学Ⅰ・Ⅱ	
10	●	音声学Ⅰ・Ⅱ	15
11	●	クリエイティブ・アーカイヴ概説	
12	●	芸術史	16
13	●	パフォーマンスアーツ・キュレーション概論	
14	●	バレエ史Ⅰ・Ⅱ	17
15	●	美学Ⅰ・Ⅱ	
16	●	ポップ論Ⅰ・Ⅱ	18
17	●	メディア特論：アート＋	
18	●	映像演習Ⅰ 映画	19
19	●	映像演習Ⅱ アニメーション	
20	●	芸術環境創造論	20
21	●	現代美術キュレーション概論	
22	●	創造と継承とアーカイヴ - Archives, Inheritance, and Creation of the Arts	21
23	●	芸術情報リテラシー概論	
24	●	芸術と情報	22
25	●	情報メディア学	
26	●	人工知能と創作	23
27	●	メディア・リテラシー	
28	●	著作権概論Ⅰ・Ⅱ	24
29	●	メディア論Ⅰ	

No.	テーマ	科目・コンテンツ	ページ
30	●	メディア論Ⅱ	25
31	●	イタリア文学Ⅰ・Ⅱ	
32	●	英米文学Ⅰ・Ⅱ	26
33	●	憲法	
34	●	社会学	27
35	●	宗教学	
36	●	心理学概説Ⅰ・Ⅱ	28
37	●	生物学Ⅰ・Ⅱ	
38	●	ドイツ文学Ⅰ・Ⅱ	29
39	●	フランス文学Ⅰ	
40	●	フランス文学Ⅱ	30
41	●	文化人類学Ⅰ・Ⅱ	
42	●	法学（含日本国憲法）	31
43	●	倫理学Ⅰ・Ⅱ	
44	●	歴史Ⅰ・Ⅱ	32
		学びとこれからの幅を広げる藝大各センター 保健管理センター 学生相談室	33
45	●	アート・リサーチ演習	34
46	●	音楽教育入門	
47	●	芸術文化環境論Ⅰ	35
48	●	芸術と社会 21世紀の社会が求める創造性とは（企業編）	
49	●	「障がいとアーツ」研究	36
50	●	日本の芸術・文化を英語で学ぶ	
51	●	とびらプロジェクト特集	37
52	●	DOOR 特集	38
		学びとこれからの幅を広げる藝大各センター AMC	40
53	●	イメージ演習A	41
54	●	イメージ演習B	
55	●	インタラクティブ・ミュージックⅠ	42
56	●	芸術情報演習Ⅰ	
57	●	芸術情報演習Ⅱ	43
58	●	芸術情報概論A・B	
59	●	ゲーム制作演習1・2	44
60	●	コードとデザイン	
61	●	メディアアート・プログラミングⅠ	45
62	●	メディアアート・プログラミングⅡ	
63	●	デジタルサウンド演習	46
64	●	現代芸術概説	

0

教養を磨く

藝大一年生 初年次教育プログラム

教養教育センター企画

有意義な学びはじめのためのスタートアップセミナー

(注意)

本プログラムは履修科目外のオンラインセミナーです

新たに藝大で学びはじめるみなさんへ。

大学生活のはじまりとは、これまで歩んできた人生とは全く異なる環境や過ごし方、学びに入ること。また、社会の一員として、藝大生として、自らのアイデンティティをつくり、世の中の一員として、かつ芸術という個性によって、より注目される人になることを意味します。

このような新たなステージが、自身にとって意義あるスタートになりますよう、学びはじめ、ステップアップに資するノウハウを、学内の各エキスパートがオンラインで伝授します。

4月配信

- 第1回 大学生としての学び方
- 第2回 藝大での学習や表現に必要な PC の活用法
- 第3回 将来のキャリアを考える

5月配信

- 第4回 カラダとココロのメンテナンス術
- 第5回 芸術家のための権利や法律について
- 第6回 ダイバシティ+インクルージョン
- 第7回 世界で羽ばたくために

6月配信

- 第8回 学びのための書き方（レポート・文章）
- 第9回 藝大史と深掘り

内容は変更になる場合があります

配信方法は、別途教養教育センターからお知らせします。

教養教育センター開設科目・リベラルアーツ企画授業

教養教育センターでは、藝大らしいリベラルアーツを充実させるため、全学生を対象に特別な企画授業を開設しています。本授業は、常に時代とともに在り続けなければならない表現者となる藝大生に対して、各分野の先端知を担い、新たな科学を切りひらいてきたフロントランナーの先生から直接学べる授業です。毎年、異なる先生をキュレーションして開催するこの授業、今年は、先端知を現在、開拓中、拡げ中のバイオニアとして活躍中の先生を揃えました。私たちの宇宙の奥深さ、先端工学と表現が融合することではじまる身体の拡張やスポーツダイバシティの実現、美学を原点に社会の進歩と変化を読み取る、さまざまなコミュニケーションを通じてわが国を含めたアジアのダイナミズムを探る。そして、スポーツシーンの最前線で生まれるリーダーシップづくりまで、研究とその実践を通じて最先端の知性とそこから生まれる新たな創造に接触出来る授業を展開します。

1

次の時代の知識を得る

先端知を識る 異分野横断オムニバス講座

授業を行う先生：遠藤謙、藤田あき美、安田峰俊、平芳裕子、岡田武史、岡田智博
開講時期・時間：前期 水曜日 4時限

科学の発展は、文系理系問わず、私たちに様々な可能性と影響をもたらしています。人類として新たなウイルスの脅威にさらされ、先端医療と技術の研究によってまったく新たな手段で立ち向かうことができたこと、さまざまな事情で身体を喪った方が身体拡張により走ることをたのしみその速さを競い合う、コミュニケーションを駆使することで世の中の新たな変化を読み取ることができる、その課題や困難を克服するブレイクスルーは、その好例ということができるでしょう。芸術もまた、このようにアップデートされる様々な知性を駆使することで、みなさん一人ひとりの手によって作られ、発展していきます。

本授業は、私たちにとっての知的可能性を拡張できるように、今年は、ロボット工学、宇宙物理学、ファッション学、現代アジア研究といった各分野の科学をリードする高名な方を講師に招いて行ないます。今回、さらに、芸術同様、アップデートされる様々な知性を駆使することで進歩を続ける、スポーツ学・リーダーシップの分野の授業が加わります。

まさに、新たな領域を切りひらいている最中の先生が、直接みなさんに講義することで、異なる分野の先端知にライブで触れられます。そのことを通じて、創作者としてより視野を拡げ、新しい発想や取り組みにつなげられることを期待しています。

今年の授業ラインナップ

4月

「ファッション」を取り巻く、社会、文化、技術等の考察を通じて、人間にとっての創作物が有する多角的な意味の理解を深める。
平芳裕子 ファッション論 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 人間発達専攻 准教授

5月

宇宙を構成する諸現象への理解をさまざまなアプローチと引き出して解説、実を持った創造的知性で世界を生き抜く術。
藤田あき美 宇宙物理学者 信州大学 工学部 准教授

5・6月

人間の機能を補い（義足等）拡張するバイオメカニクス・ロボティクスを通じた、先端科学の創造的社会的実装について。
遠藤謙 ロボット工学者 株式会社 Xiborg 代表取締役 ソニーコンピュータサイエンス研究所アソシエイトリサーチャー

6・7月

実際にグローバルに現代アジア人世界を現地と溶け合い、観察し、かつ独創的文体で報じてきた経験からの、他文化への洞察力とそこから生み出す表現手法を豊富な実例より明らかにする。
安田峰俊 ルポライター 中国現代文化 立命館大学人文科学研究所客員協力研究員

7月

アスリートにとってのリーダーシップと、スポーツ・文化による人間形成について。
岡田武史 サッカー指導者 株式会社今治、夢スポーツ代表取締役

授業キュレーション 岡田智博 教養教育センター コーディネーター

全講義にわたり進行役をします。表現を通じて社会の最前線に出るみなさんにとって、思索や実践の厚みにプラスとなる機会となることを期待しています。今年は、ぐっと現在進行形で先端知を開いている最中の先駆的な先生を揃えましたので、同時代の知的創造にライブで触れることができます。例年、受講生から好評の各先生と直接お話しできる機会を今年も授業前後につくりたいです。ぜひ、ご参加ください。

芸術を通じて、社会を切りひらく可能性を持っている藝大生に、世界的な視野を涵養できるよう、グローバルサポートセンターとのリベラルアーツ企画授業を開設しています。これから社会で表現し、活躍するために必要とされる、「多様性＝ダイバーシティ」「受容＝インクルージョン」を第一線で活動する、多彩な講師から学びます。

2 社会と共創する アーティストのためのダイバーシティ&インクルージョン入門

授業を行う先生：毛利嘉孝、江上賢一郎、上野千鶴子、出口真紀子 ほか
開講時期・時間：後期 木曜日 6 時限

みなさんがこれから文化・芸術を学び、活動していくなかで、国籍や言語を超えて様々な背景・出自を持つ人々、そして異なる世界観や価値観との出会いを数多く経験することになるでしょう。それはまた、これまで自分が当たり前だと思っていた考え方や価値観が、実際には特定の時代や社会、属性のなかで形作られたものであり、他のひとたち、社会にとっては決して当たり前ではないことに気づききっかけにもなります。

このようにして私たちは、世界の多様性や差異を知っていくと同時に、現実にはそれらを拒否・排除してしまう「当たり前」の社会や政治の常識 / 制度が依然として存在しています。私たちが「〇〇は当たり前だね」言うことで、その背後で放置されてきたさまざまな問題（差別、偏見、排除）があります。例えば、大学へ進学すること、母国語だけでコミュニケーションすること、自分の性別、国籍や肌の色について特に気にせず生活すること。実はこれらのことは誰にとっても「当たり前」のことではないのです。

「多様性（ダイバーシティ）」と「受容（インクルージョン）」という言葉は、現代社会において私たちひとりひとりが抱えているさまざまな差異や特性（障がいの有無、国籍、性別や性自認、人種、信仰、年齢、言語、文化）を自他共に理解し、尊重することを学ぶことで、この社会とともに尊厳をもって生きていくための視点・考え方であり、私たちひとりひとりが生まれながらに有している「人権」に結びつくものです。

本授業では「マジョリティとマイノリティ」「ジェンダーとセクシャルリティ」「人種とエスニシティ」といったいくつかカテゴリーから、それぞれの専門分野の研究者による理論とアーティストらによる実践を学びます。受講生のみなさんは、理論を学ぶことで個々の身体的、社会的、経済的、文化的差異が支配的な社会規範・構造によって偏見、差別、排除に晒されるメカニズムについて学び、その上でこれらの問題を文化芸術の領域で乗り越え、解決しようとする実践を知ることになります。そして、この授業を通して、今後自分の表現活動や研究内容が、他者、とりわけ自分とは背景が異なる人びとにどのように感じ、受け止められるのか、自分のなかにこれまで知ることのなかつた多様で異なる人々たちへの想像力を働かせること、それがこの授業の目的です。これまで差別や偏見について考えざるをえなかった人だけでなく、そんなことをあまり感じたことはない、関係ないと思ってきた人々たちにも受講してほしいと思っています。それは「当たり前」を問いに付し、新たな視点や価値を社会に提示しようとする文化・芸術を担うみなさんにとって、とても重要な学びになるはずです。

過去の授業レポート

これまで、出口真紀子氏、上野千鶴子氏、中村美亜氏、治部れんげ氏、福島智氏、牧原依里氏、アンジェロ・イシ氏をゲスト講師に迎え、ジェンダー、セクシュアリティ、障がい、文化の多様性などをテーマに講義とディスカッションを行いました。

●「マジョリティ特権とは／さまざまな特権と交差性／マジョリティ側の責任と課題」（出口）

「特権（＝ある社会集団に属していることで劣らなくて得られる優位性）」をキーワードに、これまでマイノリティ側から学ぶことの多かった差別や人権の問題を、特権を持つマジョリティ側の態度や心理、行動、成長に焦点を当てて考察。

受講者の声

「自分は差別とは無関係で、差別をする誰かが悪いと思っていたが、そのようなマジョリティの無関心がマイノリティの生きづらさを作っていることを知り、他人事には思えなくなった」

●「ミソジニー・性暴力・フェミサイド——家父長制の構造と実践」（上野）

ミソジニー、ホモソーシャル、ホモフォビアなどの概念を紹介しながら、女性学・ジェンダー研究が男性優位社会と性差別について何を明らかにし、何を達成してきたのかを解説。

受講者の声

「家父長制ができた仕組みを学べば戦い方がわかる、どこかの時点で生まれたシステムはどこかで終わると聞いて勇気づけられた」

●「視覚と聴覚のない世界で生きること、そこで感じる美しさについて」（福島）

9歳で失明、18歳で失聴した言う者の講師が、触覚・嗅覚・味覚で感じる情報とは。そして五感とは異なる次元の内面で感じる「ことばの世界」の美しさについて解説。

受講者の声

「視覚や聴覚に依存する芸術をいくらか用いても（それらを感じ取れる）前提が自己と他者間で異なっているので、同じ体験にはなり得ないことが理解できた」

●「エスニシティと多文化共生」（イシ）

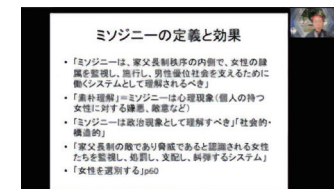
日本とブラジルにおける「エスニック・マイノリティ」に対する差別や人権侵害の現状、メディアでの「外国人」の表象などを通して、日本社会の「多文化共生」の実情について考察。

受講者の声

「(視聴者から批判されたテレビ番組の事例を見て)自分の伝えたいことを大事にしながらも、それが差別的な表現になっていないか、当事者によるチェックを含めたりサーチや配慮が必要だと思った」



出口真紀子先生の授業（オンライン）より抜粋



上野千鶴子先生の授業（オンライン）より抜粋

学びとこれからの幅を広げる藝大各センター

グローバルサポートセンター

グローバルサポートセンターでは、外国人留学生、そして将来国際的な場で活躍するアーティスト、研究者を目指す学生に向けて、さまざまな国際交流プログラム、語学学習支援、異文化体験の提供を行っています。今後、海外留学や英語学習、領域横断的な国際交流や短期海外プログラムなどに関心のある方は、ぜひ本センターを積極的にご利用ください。一部を除き、いずれも全学部・研究科の学生が参加・利用できます。



グローバルサポートセンター特設ウェブサイト
<https://global.geidai.ac.jp/>

藝大生だからこそ、思い悩むであろう将来の進路のこと。そして、藝大生だからこそ、開かれている幅広い可能性。これからの自らの進む途を構想するための力を養えるよう、キャリア支援室とのリベラルアーツ企画授業を開設しています。アーティストとして、社会人として、自らの手でキャリアを構想できる場を、授業を通じて提供します。

3 社会と共創する キャリア設計演習 ～未来を切り拓く力を育む～

授業を行う先生：富塚絵美 ほか

開講時期・時間：前期 水曜日 5 時限

「藝大生って卒業後どうなるの？」

みなさん、卒業後のこと、考えていますか？

「就職なんてしない」と思っている人にも、「そんなこと考えたら芸術なんてできない！」と思っている人にも、平等に卒業後はやってきます。そして、いくら嫌がっても社会人の一員とみなされ、どうにかこうにか社会との折り合いをつけて生きていくことになります。

藝大生は、一人一人が望む道を信じて進んでいくことが多いので、将来進むキャリアに傾向はなく、個々によってその活動の幅も多岐に渡ります。みなさんが学生のうちに取り組む専門的な知識や技術、それらにまつわるさまざまな経験や学びは、ジャンルを問わず社会の出来事を推進する力に繋がっています。たとえば、イメージを具現化していく専門技術や実行力、実現するまでの計画力やコミュニケーション能力などは、プロのアーティストや専門家としてだけでなく、どの業界で働く場合にも重宝されます。

ただ、芸術の価値を前提とする「藝大」から一步外に出た時には、当然、その前提を共有できない人々やその価値に重きを置かない人々の中で「仕事」をしていく機会が増えることでしょう。

そういった時にも、めげずに芸術とともに生きていく、あるいは堂々と創造性を発揮していくためには、みなさんが錬している専門的な技芸とは異なる、社会と接するための「技」や「知恵」が必要になります。

キャリア設計演習では、以下の三つの切り口をテーマに、みなさんが歩みたい道を進むために必要なマインドセットについて一緒に考えていきます。

・アートと「お金」

卒業後も芸術活動を続けるには、「お金」についてどう考えたらいいのか。経費の考え方や報酬の決め方、公的資金との付き合い方からどうすれば貧乏生活を抜け出せるのかという現実的な問題まで、事例や書籍に向き合いながら一緒に考えます。

・アートと「社会」

社会の中で芸術活動を実践するには、演奏や作品制作などの技術以外にどんな技術や知識が必要でしょうか。仲間や理解者を増やしていくにはどうしたらいいのか。マネジメントやプロデュースというけど一体どんなことをする必要のあるのか。企画書の書き方から文化事業をどう評価するかなどの具体的な手法を学びます。

・アートと「身体」

何を夢見てよくて、何を夢見ると社会不適合者と言われてしまうのか。「思考」と「考え」、「仕事」や「労働」などの言葉の使い方を整理しながら、自分の身体を活かしてよりよく生きる方法について考えます。

卒業後も自分の感性を否定することなく生きていくためには、まず自分と社会の両方の現状を知る必要があります。それらを知った上で、次の一手を導き出せる力をつけなければとても苦しみことになるでしょう。脅かしたいわけではありませんが、道なき道を一步一步進んでいくために、自分の将来をなりゆきに任せるのではなく、必要な経験・知識やスキルを自覚したり判断したりしながら理想イメージに近づけていく思考力を身につけることが、この授業の目的です。

「アーティストや演奏家になる／ならない」あるいは「就職する／しない」に関わらずぜひ受講してください。

学びとこれからの幅を広げる藝大各センター

アートキャリア・オフィス

学生・卒業生が芸術を通して広く社会に貢献できるように、キャリア形成および就職活動の支援を行っています。

就職に関する情報提供はもちろん、オンラインや対面での進路相談や、芸術家を支援したい社会人や多種多様な先輩たちとの交流の場を開いています。作品発表や演奏会の企画書を書いたり、「小さな本番」の実践を通して運営ノウハウを学ぶ機会もありますのでぜひご参加ください。



アートキャリア・オフィス公式ウェブサイト
<https://csupport.geidai.ac.jp/>

4

芸術の広がりを知る アーカイブ概論

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：上崎千、西澤徹夫、嘉村哲郎
開講時期・時間：前期 水曜日 3時限

アーカイブとは何か。いかにしてアーカイブは可能となるのか。アーカイブは何と異なり、何とどう似ているのか。システムとしての言語（言語化の諸可能性）と物理的なマテリアルの集成（corpus）とのあいだで実現されるカルトグラフィを、芸術学の範疇において捉え直します。

芸術を構成している様々な事象〈アーカイブ〉に向けての問いを投げかける本授業の射程には、アーカイブという知の在り方そのものを駆動させている技術への関心が含まれています。

本授業では、アーカイブ理論、建築学、情報学を専門とする3人の教員の視点から、アーカイブをめぐる様々な問いと「芸術作品とは何か」という根源的な問いとの接続を、講義・講読・討論を通して試みていきます。

5

芸術の広がりを知る 応用音楽学入門Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：畑俊一郎
開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 水曜日 3時限

音楽芸術の広範な可能性を探求するため、心理学、医学、人間工学、といった多様な観点から音楽と人間の関係について考察します。今年度は、「言語」と「音楽」に焦点をあわせて履修生とともに考察を進めます。

「言語」と「音楽」は、人間に固有の活動（能力）であると考えられる。両者の類似点・相違点を考察することは、すなわち人間存在というものを根本的に考え直すことにつながることでしょう。

6

芸術の広がりを知る 音楽文化史Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：館里里沙
開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 4時限

私たちの親しむ音楽文化の中では、様々な「音楽」の定義が存在しています。本授業では、その多種多様な音楽の価値観が生まれた歴史を、とりわけ西洋音楽とそれを取り巻く社会に焦点をあて、概観します。過去の音楽を知ることで、改めて現代の音楽文化を考察するというのが本授業の到達点です。

前期は、主に講義形式で授業を実施、中世から近代までの西洋音楽史を概説します。後期は、主に演習形式で授業を実施、音楽環境創造科の学生が携わることの多い20世紀以降の音楽を採り上げます。

7

芸術の広がりを知る 音楽療法Ⅰ

音楽学部開設科目

授業を行う先生：今野貴子
開講時期・時間：前期 木曜日 4時限

みなさんは一人の人と対面した時に、自分の音楽を活かして関わることができるでしょうか？

音楽療法の理論と技術には、乳幼児から高齢者に至る幅広い年齢層に対して、さまざまな病気や障害、環境や文化を持つ対象者に寄り添いながら、医療福祉施設、学校、コンサートホールなど多様な現場で音楽を提供するためのヒントが詰まっています。

授業では、音楽療法の基礎的な理論や実践例について映像を交えて紹介するほか、自分の専門性を生かしながら様々な対象者と関わる技術や、多様な音楽活動を企画するコツについて実践的に学ぶ予定です。

ぜひ、音楽療法の視点から、自分の感性と音楽技術を人のために活かす方法を見つけてください。

8

芸術の広がりを知る

音楽療法Ⅱ

音楽学部開設科目

授業を行う先生：重田絵美

開講時期・時間：木曜日 4時限

現在の日本の音楽療法は、乳幼児から高齢者まで幅広く対象とし、発達支援やリハビリテーション、社会参加、看取り等、さまざまな臨床的目標のもとに行われています。

授業では、様々な領域における音楽療法の事例を、映像やロールプレイング等を交えて紹介し、音楽による関わり、臨床的な目標に向けたアプローチ等について学びます。授業を通して、様々な人との関わりや音楽活動において幅を広げる機会になることを期待しています。

音楽療法の実践例から、一人一人の成長発達を支え、個々の生き方に寄り添う音楽の意味や可能性について学ぶことができます。みなさんが、音楽の届け方、社会における音楽の可能性等について考えることにも、つながっていくことでしょう。

9

芸術の広がりを知る

音響学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：渡邊祐子

開講時期・時間：Ⅰ（前期）火曜日 1時限・Ⅱ（後期）火曜日 2時限

“音”とは、私たちの生活環境に存在し、私たちの生活を“豊か”にも“不快”にもする重要な環境パラメータです。

前期の音響学Ⅰでは、音を扱う学問（音響学）の歴史と変遷を概説したあと、音の物理的特性として音の発生、音波の伝搬などが地球の物理法則に基づいていることを解説します。一方で、ヒトは聴覚（耳）を通して音を知覚します。その機能（生理）や感覚的性質（心理）についても解説します。

後期の音響学Ⅱでは、音響学に含まれる様々な分野や技術、例えばデジタルオーディオ、音声、3D音響、サウンドマップなどの解説や最新のトピック紹介を通して、音に関する知識を深めることを試みます。

10

芸術の広がりを知る

音声学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

未来創造継承センター開設科目

授業を行う先生：三枝英人

開講時期・時間：Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）水曜日 1時限

歌ったり、ことばをしゃべったり、楽器を演奏したり、そして芸術を創造するのはヒトのみが行う行動です。

音声学というと硬いイメージですが、この授業では、音楽という特異な行動を行うヒト自身の成り立ち、それをさらに生命の成り立ちから、例えば音楽を行う身体姿勢がなぜ歌声や器楽演奏に大事なのか、呼吸とは何か、ピッチの調節や発音はいかに行われるべきかなどを考えていきます。ですので、(芸術として、もしくは創造的な)音(と)声(について)学び、考える講座ということになります。朝いちばんの授業なので、パンをかじりながら気軽に、頭を柔軟にして受講してください。

11

芸術の広がりを知る

クリエイティブ・アーカイヴ概説

未来創造継承センター開設科目

授業を行う先生：毛利嘉孝、未来創造継承センター教員

開講時期・時間：通年 木曜日 ※不規則日開講 18:00～19:30

現代のアーティストは創作活動だけでなく、自身の作品や活動を意識的にアーカイヴすることが必要となっています。本授業は、専門的な資料アーカイヴだけでなく、「アーティストのためのアーカイヴ」を概説する、年間15回のオンライン講義です。

各回、ゲストを招いて、美術・音楽・映像の創作やプロデュースと共に、身体表現や評論など、多様な表現活動のアーカイヴをどのように構築、活用していくかを学びながら、各々の新たな創造へとつなげていきます。

12

芸術の広がりを知る

芸術史

音楽学部開設科目

授業を行う先生：木方幹人

開講時期・時間：前期 月曜日 5時限

「藝術」(＝アート)の生成の歴史を「近代」のひとつの柱として位置づけ、それが自律性を獲得し、いかにその言葉として使われ続けてきたかを具体的に講ずる授業です(例えば「藝術大学」の名が困難なく流通するその理由を示すこともなる)。

そこでの「近代」とは今もその渦中にあるという広義の意味であり、科学的世界観および産業革命の勃興とともに「人間の思想」として欠くべからざる枠組みとして発展し続けている姿を、美術、音楽のみならずひろく漫画・アニメにいたるまで「各芸術史」としてわかりやすく説明します。

同時に一般にあまり知られていない「エステティック(美的直感的)」の次元、すなわち美学の理解と藝術という理念を説明していきながら、「アート(藝術)とは何か」という問いに自分なりの解釈を持てるための基礎知識を講じます。

13

芸術の広がりを知る

パフォーミングアーツ・
キュレーション概論

キュレーション教育研究センター開設科目

授業を行う先生：箕口一美

開講時期・時間：後期 集中講義

「パフォーミングアーツ(実演芸術、舞台芸術)をキュレーションする」というのは、今世紀に入ってから盛んに議論され始めた発展途上の考え方です。この講座では、この新しい見方や考え方を、将来パフォーミングアーツの現場で活動することになる、あるいはそうした活動に関心を持っている学生といっしょに、自分の言葉や表現で語れるようにする、初めの一步をふみだします。パフォーミングアーツが他のアート・フォーム(芸術の形態)と決定的に違う点は、「モノを作る make things」ではなく、「コトを起こす make ○○ happen」にあります。また、パフォーミングアーツを特徴づける点は、その実現 happen と完結 complete に「受け取り手 audience」が、不可欠であることです。

本講座では、上に挙げた二つの点を結ぶ線を軸に、まずパフォーミングアーツ制作のエキスパートが、主に演劇・音楽などのパフォーミングアーツの制作過程を紹介・分析しながら、その制作過程と舞台の裏側で「起こっている」ことを学生と共有していきます。芸術祭、演劇祭、音楽祭における共同創作の場において、どのようなチームで、どのような分担をして、どのような準備をしているかといった具体的な話を聞き、実演芸術の「コトの起こし方」を学びます。

14

芸術の広がりを知る

バレエ史Ⅰ(前期)・Ⅱ(後期)

音楽学部開設科目

授業を行う先生：川島京子

開講時期・時間：前期(Ⅰ)・後期(Ⅱ) 火曜日 3時限

バレエはイタリアで生まれ、フランスで育ち、ロシアで花開いたといわれます。さらに20世紀になると、このロシア・バレエがロシア革命によって全世界へと伝播してゆきます。

授業では、こうしたバレエ史の通史を押さえつつ、それぞれの時代の作品の特徴について学びます。バレエ芸術の基礎から文化的・政治的コンテキスト、ほかの芸術ジャンルとのつながりなど、広い視野からのアプローチの中でたくさんの発見をしていただき、みなさん自身の表現につなげてほしいと思っています。

前期の「バレエ史Ⅰ」では、舞踊の起源から19世紀のロシアのクラシック・バレエまで、後期の「バレエ史Ⅱ」では、20世紀のバレエ・リュスから現代までのバレエを学びます。

15

芸術の広がりを知る

美学Ⅰ(前期)・Ⅱ(後期)

音楽学部開設科目

授業を行う先生：吉田寛

開講時期・時間：前期(Ⅰ)・後期(Ⅱ) 水曜日 5時限

美学は、感覚や感性について考える学問です。

英語ではエスティックスといいますが、この語は、感覚や感じることを指すギリシャ語のアイステーシスに由来します。感性と美と芸術が、美学の三つの主要な関心領域です。美学はよく芸術学や芸術理論と混同されますが、芸術は美学の対象の一部にすぎません。

芸術の制作や鑑賞はもちろんのこと、日常生活のあらゆる場面で、われわれは五感を通して世界を感知しています。思考や感情はすべて感覚や感性と結びついています。身体や感覚は、われわれに属するものというより、われわれと世界の境界です。その境界の在り方や働きについて考えるのが美学なのです。

この授業では、芸術だけでなく様々な身近な事象を扱いながら、感性について考えます。

16

芸術の広がりを知る

ポップ論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：桜井圭介

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 水曜日 4時限

ほんの100年ちょっと前に始まったユース・カルチャー、それ以前には社会を回している「大人」が独占していた文化（主流の／規範的な／メジャーな）に対して起こった、コドモのコドモによるコドモのためのカルチャーについて見ていきます。

ここでいう「コドモ」とは、「(例えばアメリカ合衆国における) 非白人」「女性」「同性愛者」など、様々な意味における「マイノリティ」のこともあてはまるでしょう。

具体的な足掛かりとして、アメリカン・ポップ・ミュージック史、日本社会の転換期＝1980年前後のポップ・カルチャー全般を概観していきます。どちらも、遠い過去の話に思えるかもしれませんが、僕たちの現在のポップ・カルチャーの起点であり参照点だと思うのです。

17

芸術の広がりを知る

メディア特論：アート＋

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：八谷和彦、牛島大悟、松浦知也

開講時期・時間：通年 水曜日 6時限

芸術情報センター（AMC）では、その時代の第一線で活躍しているゲストの方々を招いた講演及び授業を行ってきました。この授業では、様々な分野のトップ研究者・表現者・実務者・起業家を迎えてゲスト講師の講演およびトーク形式の講義を行います。

アイデアを生み出す、創造力を養うには、様々な専門領域の研究や最先端の発想を知ることが非常に重要です。自分の専門領域だけでなく、その専門性を軸に多分野についても幅広い見識を持つことでより柔軟な発想力を身につけることが出来ます。また、毎回の授業に参加し多種多様な側面から考えることで、この講義がきっかけとなり新しい発想やひらめきにつながることを期待しています。

本授業は「社会共創科目（公開授業）」として社会人受講も同時に行なう、オンライン授業です。

18

芸術の広がりを知る

映像演習Ⅰ 映画

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：長嵩寛幸、加藤直樹

開講時期・時間：前期 月曜日 3時限

現在のあらゆる芸術表現において、映像は「芸術の記録装置」という存在を超えて、「芸術表現の一部」としても、あるいは「芸術表現そのもの」としての役割をも果たすようになりました。

この授業では「20世紀の映像表現」を牽引した「映画の制作手法」を学ぶことから、「21世紀の映像表現の可能性」を考えていきます。

授業内容は、

- ・ゲスト講師による「映画の制作手法」についての講義（監督、脚本、撮影照明、美術、編集、サウンドデザインについて）
- ・芸術情報センター所有のカメラ、編集ソフト（Adobe Premiere）を使った演習を二本柱とし、最終的に数分間の短編映画制作を行うことで、映像制作の実践的知識と技術の習得を目指します。

19

芸術の広がりを知る

映像演習Ⅱ アニメーション

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：布山タルト、伊藤有亮、山村浩二、岡本美津子、牧奈歩美

開講時期・時間：後期 水曜日 5時限

アニメーションはダイナミックにその形を変えながら様々な領域へと浸透する大きな可能性を持った表現です。本授業ではその可能性と多様性、それを基礎づける思考や技術、社会とのつながり等について、異なる専門性を持つ教員陣がオムニバス形式で紹介していきます。

授業内では、歴史や地域を横断する多数のアニメーション作品を紹介するとともに、一部、ワークショップ形式の演習なども交えながら、アニメーション表現を俯瞰的に理解できます。

本授業を入り口として、みなさん自身の制作や研究の実践に積極的にアニメーションを取り入れて深めていってほしいと考えています。

20

芸術の広がりを知る

芸術環境創造論

キュレーション教育研究センター開設科目

授業を行う先生：熊倉純子、大石歩真、兒玉絵美、佐野直哉、長津結一郎、楊淳婷、
榎原彩、会田大也、太下義之、森隆一郎、吉本光宏、伊藤達矢

開講時期・時間：集中（前期）6月1日・8日・15日・22日・29日 3～5時限

日本の文化政策の現状を、アートの現場レベルの視点で概観します。特に今日の文化芸術は、地域社会や他分野との連携が不可欠です。そこで、社会からの多様な要請に伴い、文化芸術の担い手たちは幅広い知識や技術が求められるようになっていきます。

本授業では、多彩なゲスト講師を招き、文化芸術と社会のつなぎ手に必要とされる基礎的な理論やノウハウなどを学びます。

21

芸術の広がりを知る

現代美術キュレーション概論

キュレーション教育研究センター開設科目

授業を行う先生：難波祐子

開講時期・時間：後期 木曜日 6時限

現代美術を取り巻くキュレーションは、近年の美術表現の領域横断化や、時代の変化に伴う美術館や展覧会のあり方の変遷によって、大きくその姿を変えています。

本授業では、キュレーションの現在を中心に、過去と未来にも眼を向け、その多様なあり方と可能性を紹介し、これからのキュレーションについて思考・実践していくための手がかりとします。

毎回、さまざまな専門分野から講師を招き、オムニバス形式の授業でキュレーションを多角的な視点から読み解き、これからのキュレーションのあり方についてディスカッションしていきます。

22

芸術の広がりを知る

創造と継承とアーカイヴ

未来創造継承センター開設科目

－ Archives, Inheritance, and Creation of the Arts

領域横断的思考実践 – Cross-disciplinary Platform

授業を行う先生：平論一郎、李美那

開講時期・時間：通年 木曜日 ※不規則日開講 18:00～19:30 年間15回

ZOOMによるオンライン授業です。学部・院、専攻を問わず、誰でも受講できます。美術・音楽問わず、アートを取り巻くさまざまな話題を取り上げながら、知的好奇心のタネを縦横無尽に発掘し、受講生も含めてディスカッションする場を提供してゆく授業。東京藝大の多様な先生方や、学外や美術以外の専門家も含め、多分野のアーティストや研究者を招いて話題提供します。

アートが生まれる社会の幅広い知を、自ら読み解く力を鍛えることを目指し、待ちではなく攻めの姿勢で臨んでください！

23

次の時代の知識を得る

芸術情報リテラシー概論

芸術情報センター開設科目

著作権、知的財産権、メタバース、NFTアート

授業を行う先生：我妻潤子

開講時期・時間：後期 水曜日 4時限

芸術の世界もデジタル化が進み、NFT・メタバースといった単語が普通に聞こえてくるようになってきました。一方で自身の作品の権利を他人に侵害されたり、自身が侵害しないようにするためには、知的財産権の知識を持つだけでは足りず、知的財産権の知識を利用することが求められます。

この授業では、知的財産権の知識を「情報」ととらえ、芸術に関する「情報」を、自身で精査し、考えるということを目的としています。

今後ますます、芸術作品の在り様が多様化され、またそれを伝播する方法も多様化していきます。「知らなかった」では済まされない時代だからこそ、積極的に参加し、情報収集力、情報精査力を身につけてもらいたいと思っています。

24 次の時代の知識を得る 芸術と情報

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：桐山孝司
開講時期・時間：後期 水曜日 5時限

芸術と情報の関わりについて考察し、創作活動を行っていく上で必要な情報についての理解を深めます。また AI や暗号など、現代社会を見えないところで動かしている情報技術のしくみにも注目します。

講義の中では、観ておくべき古典的な映像作品に触れる機会も設けます。

一部の回では大学院映像研究科ゲームコースとの連携により、スクウェア・エニックスのクリエイターによる講義をアーカイブ映像で行います。

25 次の時代の知識を得る 情報メディア学

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：嘉村哲郎、中村美恵子
開講時期・時間：前期 月曜日 4時限

私たちの身の回りにある様々な情報ツールの利用方法について学びます。メールやクラウドの利用など、基礎的な内容から専門的な内容まで幅広く解説します。

現代社会において誰もが知っておくべき情報リテラシーとして、Microsoft Office の利用方法については基礎から応用まで、実際に機器を操作しながら身につけていきます。また、インターネットを利用する上で必須の知識となっている、情報セキュリティや著作権についても学びます。

各回において、実習形式、講義形式を取ります。課題が出される場合もあります。高度化された現代の情報社会において情報機器を扱う上での、基本リテラシーとセキュリティ意識を身につけることを目指します。

26 次の時代の知識を得る 人工知能と創作

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：田所淳
開講時期・時間：後期 金曜日 3時限

AI の技術的進歩は凄まじく世の中に多大な影響を与えています。アートやデザインといった創作の分野でも無視することのできない存在となっています。

本講義では、人工知能、特に生成 AI の基礎から応用までを探求し、AI を用いた創造的作品を作成するプロセスを探求していきます。まず始めに Google の Teachable Machine などのツールを活用しながらニューラルネットワークや機械学習といった AI の基本を学びます。さらにプログラミング支援、テキストと画像生成、音楽、インタラクティブメディアの生成、映像生成といった AI を活用した創作について掘り下げていきます。

ここまでの内容をもとに中間発表を行った上で、後半は各受講者が生成 AI を用いた創作プロジェクトを企画します。それぞれが企画したプロジェクトについて発表し、それをもとにディスカッションを行い最終プロジェクトの作成に取り組みます。最後にそれぞれの作品を元にした展覧会を企画し、作品を展示し講評会を行います。

27 次の時代の知識を得る メディア・リテラシー

音楽学部開設科目

授業を行う先生：ペク・ソンス
開講時期・時間：前期 木曜日 2時限

わたしたちがコミュニケーションを行なう際に基本になるのは言語です。

わたしたちは言葉を話すことで人々と疎通し、文字で書き残すことによってより広く伝え、長く残すことができます。しかしながら、現代において言語だけではなく、ビジュアルなものがコミュニケーションの役割を担うことが益々多くなってきています。新しいメディアの普及とそれによる私たちのメディア使用と感覚の変化もその理由になるでしょう。

この授業では絵画、映像、写真のシンボル・記号・アイコンなどのビジュアル情報を読み解きます。歴史的な起源、異文化的な相違、現代のマスメディアの観点から読んでいきます。

28

次の時代の知識を得る

著作権概論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：桑野雄一郎

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 2時限

音楽と関わっていく上で著作権法は避けて通れません。音楽作品を創作する人、音楽作品を演奏・歌唱する人、演奏・歌唱された音楽作品を視聴し、それを利用する人、それぞれについて著作権法の定めている様々な権利が密接に関係します。

前期のⅠでは、みなさんにとって身近で、またとても重要な著作権法の概要について解説をします。法律の中でもなかなか複雑でわかりにくく、またファジーな要素が多いのですが、弁護士としての実務経験も踏まえて、実例なども紹介しながら進めていきます。

後期のⅡでは、Ⅰで学んだ著作権法の概要を踏まえて（ただし、Ⅰを履修していることは履修の要件ではありません）、具体的な事案を紹介しながら理解を深めます。実際に紛争になった事例や、炎上騒動になった事例、特に問題にはならなかったが著作権について考えるのによい事例などについて、具体的な題材を提供しながら、解説をしたり、みなさんと一緒に考えたりしながら進めていきます。最新のトピックスでいいものがあれば、それを取り上げることもあります。

適宜、動画や音源などの資料を視聴してもらったり、短い文章を読んでもらったりする予定です。

29

次の時代の知識を得る

メディア論Ⅰ

音楽学部開設科目

授業を行う先生：若林幹夫

開講時期・時間：前期 木曜日 2時限

メディアとは、人間と人間、人間と社会、人間と世界の間を媒介し、日常生活から文化的表現にいたる多様な実践を支え、それらにさまざまな形態と効果をもたらす技術的装置と情報媒体です。

2024年度の講義では、スーザン・ソントグ『写真論』(Susan Sontag, On Photography)を取り上げ、写真というメディアが人間の知覚や世界認識のあり方、文化や芸術をどのように変えてきたのか、現代のデジタル化しネットワーク化した社会における映像と現実の関係を考えるため、どのようなヒントをそこから得ることができるのかを検討します。

30

次の時代の知識を得る

メディア論Ⅱ

音楽学部開設科目

授業を行う先生：若林幹夫

開講時期・時間：後期 木曜日 2時限

メディアとは、人間と人間、人間と社会、人間と世界の間を媒介し、日常生活から文化的表現にいたる多様な実践を支え、それらにさまざまな形態と効果をもたらす技術的装置と情報媒体です。

2024年度の講義では前期のメディア論Ⅰから継続して、スーザン・ソントグ『写真論』(Susan Sontag, On Photography)を取り上げ、写真というメディアが人間の知覚や世界認識のあり方、文化や芸術をどのように変えてきたのか、現代のデジタル化しネットワーク化した社会における映像と現実の関係を考えるため、どのようなヒントをそこから得ることができるのかを検討します。

31

教養を磨く

イタリア文学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：畑瞬一郎

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 火曜日 3時限

本授業では、イタリア詩を歴史的に概観します。

聖フランチェスコからダンテ、ペトラルカなどを経て、19世紀の詩人、レオパルディ、パスコリの代表的な詩を題材にしながら、イタリアの詩について学んでいきます。同時に韻律学の基礎的な知識を解説し、イタリアの定型詩がどのような発展をしてきたのかを考察します。

なお履修にあたってはイタリア語の文法知識および基本的な読解能力を必要としていますので留意ください

32

教養を磨く

英米文学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：侘美真理

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 火曜日 3時限

「英米文学」の授業には目的が2つあります。18世紀～20世紀のイギリス文学に触れ、それぞれの時代の作家が人生や社会をどのように描き、またその世界を「言語テキスト」という形でどのように構築したかを知ることです。もう1つの目的は英語の原文・原作に触れてもらうことです。原文ならではの面白さと小説としての複雑さ、この両方を体験してください。語学の勉強にもなりますが、単語や表現のニュアンスなどテキストを深く読み込むので、文学の読み方の基礎を学ぶことになります。

2024年度前期は英国の代表的な探偵・推理小説を紹介します。後期は前期の作品の中からじっくり読める中編・短篇を2、3篇選び、テキスト全体を原文で読んでいきます。

33

教養を磨く

憲法

美術学部開設科目

授業を行う先生：岡田順太

開講時期・時間：前期・後期 月曜日 2時限

この授業は、日本国憲法の基本原理や内容を概観し、国家の統治組織とその働きについての理解を深めることを目指します。

テキストをもとにした講義が中心ですが、授業内容の確認と理解の定着を目的として小テストを実施したり、予習用の動画を提供したりして、履修者のニーズに応じた学習ができるように配慮しています。

なお、憲法は公務員試験や教員免許取得の必須科目です。授業においては、そうした試験などにおいて要求される水準を確保するために必要な最低限度の知識の伝授ができるようにも心掛けています。

【授業内容参考 URL】 <https://sites.google.com/view/geidai-kenpou/>

34

教養を磨く

集中講義 社会学

美術学部開設科目

授業を行う先生：土橋臣吾

開講時期・時間：通年 集中講義

社会学はたいへん幅の広い学問ですが、この授業では、ポピュラー音楽を素材としながらメディアの社会学の基礎を学んでいきます。

「音楽をめぐるメディアの変遷」が直接の議論の対象となりますが、それを通じて、メディアというものが文化や社会のかたちにごう作用するのかを理解することが、この授業の主眼となります。そのために、「マスメディアと音楽」「デジタルメディアと音楽」「ソーシャルメディアと音楽」の3セクションに分け、それぞれのセクションの初回で重要な理論や概念について学び、その上で事例の分析を行います。

授業の形式としては、座学が6割、ワークショップ形式が4割というかたちで、動きのある授業を展開するように心掛けています。

35

教養を磨く

集中講義 宗教学

音楽学部開設科目

授業を行う先生：岡田順太

開講時期・時間：前期 集中講義

「宗教」というと身構えたり、堅苦しく考えたりするかもしれませんが。しかし、宗教学で扱う対象は、キリスト教や仏教などのように「○○教」と呼ばれる輪郭のはっきりした教団や教義にとどまりません。むしろ宗教的ではないような「世俗」の生き方や価値観にも及びます。一見、無関係な「宗教」と「世俗」の関係が、近年ますます注目されるようになっています。

この授業では、そうした「宗教」、「宗教的なもの」と「世俗」をめぐる歴史や現状について、「セカイ」をひとつのキーワードとして迫ってみたいと思います。これらを的確に理解することで、みなさんの表現や思考の営みも、より深く、より鋭くなるはずです。

36

教養を磨く

心理学概説Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：中山遼平

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 木曜日 5時限

リンゴは赤く見えます。これは、物理学的にリンゴの表面が特定の波長の光を反射し、また生物学的に私たちの目が光の波長に感度を持つためです。しかし、そもそも私たちが感じている「赤」とは何かという疑問が残ります。

あなた自身が感じている「赤」は、他者が感じている「赤」とは違うかもしれません。この疑問は未解明ですが、私たちの脳あるいは心の働きにより生じる内面的なふるまいとその法則を知ることは、好奇心を満たしてくれます。こと心に関しては、将来の予測にも役立つはずで

この授業では、感覚・知覚・記憶・学習・認識・感情・集団心理など、心理学の主要なトピックに関する知見を歴史的経緯や方法論と結びつけながら体系的に紹介していきます。

37

教養を磨く

生物学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

美術学部開設科目

授業を行う先生：岡田順太

開講時期・時間：前期（Ⅰ）木曜日 5時限・後期（Ⅱ）月曜日 5時限

生物の形態・生理を理解し、これらの知識を芸術作品の制作に役立てることがこの授業の目的です。

具体的には、様々な生命現象（生きていることを示す現象）のうち、身近で興味深いと思われるものを対象にして、その発現メカニズムを基礎的なことから説明します。また、生命現象から疑問点を抽出し、疑問点を正しい論理的方法により解決することを試みた研究を紹介します。これらの目的を達成するために、写真や図を用いた授業を行います。

生命現象を解析するうえでの考え方と得られた知識を自身の専門に活かすことができるようになることを希望します。

38

教養を磨く

ドイツ文学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：白鳥まや

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 金曜日 2時限

本授業ではドイツ語圏の作家やドイツ語で書かれた作品の中で重要と思われるものをピックアップし、講義形式で紹介しつつ、中世から現代までのドイツ語圏の文学の歴史やその文化的背景を学びます。

詩や短い作品であれば事前に参加者に読んできてもらい、授業内で感想や解釈について話し合う時間を設けたいと考えています。ドイツ語の知識は必ずしも求めませんので、ドイツ語履修者のみならず、これから学びたい人も歓迎です。文学に興味がある人やドイツ語圏への留学を考えている人に、「ドイツ文学にはこういう作品があるんだ」、「この作品が生まれた背景にはこんな歴史や文化があったんだな」と知ってもらえるような内容にしたいと考えています。

39

教養を磨く

フランス文学Ⅰ

音楽学部開設科目

授業を行う先生：大森晋輔

開講時期・時間：前期 水曜日 3時限

19世紀フランスは、「文学が輝いていた時代」といわれるほど華やかでした。政治的にも社会的にも多くの問題が山積する中、ロマン主義が全盛を迎え、ジャーナリズムや交通網の発達などがこれを後押ししました。

本授業では、そんな時代に生まれた文学作品を、原文の抜粋を読むことを通じて概観します。

文学作品が生まれた時代背景を知ること、作品をより身近なものにしてもらうこと、そして、テキストの読み方を習得することで、文学鑑賞そのものの深い魅力を味わってもらうことがその目的です。

取り上げる作家や詩人はユゴー、ネルヴァル、スタンダール、バルザック、フローベール、ボードレール、ヴェルレーヌ、マラルメ、ランボーなどです。

40 教養を磨く フランス文学Ⅱ

音楽学部開設科目

授業を行う先生：大森晋輔
開講時期・時間：後期 水曜日 3時限

20世紀のフランス文学では、戦争の世紀ともいわれる激動の時代を反映してさまざまな試みが現れましたが、同時に人文諸科学の成果を取り込むことで人間に対する多くの深い洞察を生んでいます。

本授業では、そんな時代の文学作品を、原文の抜粋を読むことを通じて概観します。文学作品が生まれた時代背景を知ること、作品をより身近なものにしてもらうこと、そして、テキストの読み方を習得することで、文学鑑賞そのものの深い魅力を味わってもらうことがその目的です。

取り上げる作家や詩人は、クローデル、ジッド、プルースト、ヴァレリー、アポリネール、ブルトン、サン＝テグジュペリ、カミュ、ポンジュ、バルト、デュラスなどです。

41 教養を磨く 文化人類学Ⅰ・Ⅱ

音楽学部開設科目

授業を行う先生：加原奈穂子
開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 金曜日 2時限

文化人類学の視点や基本概念、研究方法などを紹介するとともに、前期は言語、認識・分類、コミュニケーション、後期はジェンダー、観光と伝統の創造、民藝運動などの話題を取りあげています。文化人類学の特徴として、フィールドワークにもとづいて、文化の多様性や普遍性を探究していくことが挙げられます。文化人類学の概論的な紹介にとどまらず、できるだけ実例にも触れていただけるように、映像や音声資料なども活用しながら進めていきます。文化の多様性に触れることを通して、皆さんがご自身の世界を広げていく手がかりを見つけていただければと願っています。

42 教養を磨く 法学（含日本国憲法）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：横大道聡
開講時期・時間：前期 金曜日 5時限

芸術家に法律は関係ない？ 確かに一面ではそのとおりかもしれませんが。

専門的に法を学ぶよりは芸術の道に進むことがみなさんの使命でしょう。しかし、他面では、みなさんも社会を構成する一市民です。また、社会または政治生活の正・不正の問題は、芸術と密接に関係しており、それを知らずに作られる芸術は「薄っぺらい」ものになってしまいかねません。

この授業では、現在の日本社会あるいは政治共同体の在り方を、主に日本国憲法とその運用を中心に、講義を通して概観します。皆さんに市民として必要な教養を身につけてください。

43 教養を磨く 倫理学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

芸術学部開設科目

授業を行う先生：櫻井一成
開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 火曜日 2時限

大学の教養科目の「倫理学」の場合、メタ倫理学や規範倫理学の諸問題と諸学説を紹介したり、現代社会が直面している倫理的問題を紹介したりするような授業内容（応用倫理学）が一般的ですが、本授業は「藝大」で行われる倫理学の授業であることを強く意識した内容構成となっています。

倫理を他者との共生やよく生きること（幸福）に関わることがらと理解した上で、我々の美的判断や芸術の諸実践（制作、解釈）が倫理的問題を孕んでいることを指摘し、これを契機として倫理的な思索を深めていきたいと思えます。また同時に、生きることの創造的性格についても考えてみるつもりです。

倫理学と美学の交差というのが本授業のキーワードになるでしょう。

授業を行う先生：草野佳矢子

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 金曜日 3時限

この授業では、19世紀末から20世紀末までのいわゆる「西洋史」を講義します。

西洋史の知識は、現代のヨーロッパやアメリカ、また過去にその支配下にあった地域で起っていることやその背景を理解するために必要であり、また芸術作品の鑑賞やみなさんの創作活動にも有用なものであると思います。

授業では、講義内容の理解を深めていただくため、関連する映像やドキュメンタリー番組も視聴します。その際、番組内の説明が講義での説明と多少異なることがあります。講義での説明は、おおむね定説に沿ったものになりますが、歴史像は語り手の立場や史料の解釈などによって異なりうるからです。

講義を聞き、映像を視聴して、疑問を持った事柄について自身で調べてみてください。そのことにより、高校までの暗記中心ではない、歴史を学ぶことの面白さを感じることができるでしょう。

学びとこれからの幅を広げる藝大各センター

保健管理センター

保健管理センターは、東京藝術大学の学生および教職員の保健管理に関する専門的業務を行い、心身の健康の保持増進を図ることを目的としたセンターです。

からだのこと、こころのこと、感じたら、まず相談

学内で体調がすぐれなかったり、ケガをした際の応急はもちろんのこと、日常生活や学業に携わらる中で、からだやこころがしんどくなったり、変動があると感じたら、ぜひ、本センターの担当医師（一般診療・精神科診療）や専門家に相談してください。これまでと違った、暮らし方、学び方、コミュニケーションの中、不調になることは特別なことではありません。たいへんだなど、感じたら抱え込まないで、気軽にご相談ください。

担当医師への相談は、予約制になります。あらかじめ上野キャンパスのセンターへ、電話にて診療予約をしてください。

- ・保健管理センター（上野校地）050-5525-2456（内線 2710）
外来担当日： 一般診療 月・火・水・金
精神科診療 月・火・木
- ・保健管理センター 取手分室（取手校地）050-5525-2547



保健管理センターホームページ

<https://hoken-center.geidai.ac.jp/>

学生相談室

学生相談室は、学生の皆さんが大学生活を送る中で、いろいろな悩みや困ったことがおこったときに、あなたの気持ちや立場に合った相談に応じる場所です。

大学の生活、校内のことでも日常のこと、将来のこと、
ひとりで悩まないで相談してください

学生相談室では、学生の皆さんが学生生活等において抱えている問題や悩み（学業や進路・将来について、対人関係の悩み、心身の健康や自分の性格など）どんな小さなことでも相談できます。

18歳を迎え、もはや「おとな」でもあり、また、藝大だからこそ特別な環境や社会との接点が生まれていく中、さまざまな悩みや困難なことに接することも起こり得ます。

そんな大変なことを、ひとりで抱え込まず、相談することで、解決の糸口が探り出せる場が、学生相談室です。

専門の相談員が、あなたと一緒に相談内容を考えます。

相談内容については、秘密厳守を原則とします。成績・就職に不利になることはありません。

開室日時

- ・上野校地：学生会館3階
月・火・水・金 10:00～16:00（対面・電話・オンライン相談）
 - ・取手校地：福利施設2階
水 10:00～16:00（対面相談のみ）
- ※一回あたりの相談時間は50分です。

対面面接、電話相談、オンライン相談を実施しています。
公式ホームページ内のWebフォームから、相談内容と希望の相談方法をお知らせください。
学生会館3階の学生課窓口でも申し込み可能です。



学生相談室ホームページ

https://www.geidai.ac.jp/life/counseling/counseling_room/

45

社会と共創する

アート・リサーチ演習

未来創造継承センター開設科目

：「調査を用いるアート」と「アートを用いる調査」

授業を行う先生：毛利嘉孝、未来創造継承センター教員

開講時期・時間：通年 木曜日 ※不規則日開講 18:00～19:30

本授業は、近年増加している「調査を用いたアート（Research-Based Art）」と「アートを用いた調査（Art-Based Research）」の交錯点を、外部のゲスト講師によるさまざまな取り組みの実例を学ぶとともに、受講者自身も特定のテーマに沿ってその実践の実習を行います。

特に、社会学、文化人類学、文化研究、メディア研究、アーカイブ研究などの理論と調査をベースにしなが、都市やエコロジー、福祉や教育、テクノロジーや医療などのテーマに視聴覚、映像メディア、展示を用いた調査やその成果の発表について学習します。

46

社会と共創する

音楽教育入門

音楽学部開設科目

授業を行う先生：山下薫子、市川恵

開講時期・時間：前期 金曜日 3時限

音楽教育は、学校音楽教育や高度な技能習得をめざす専門音楽教育に限るものではありません。

幼児教育や障害児教育、あるいは成人を対象とした社会教育や生涯学習等においても音楽活動とその学習は重要な役割を果たしています。そうした広い意味での音楽教育について学び、音楽と人間の多様なかわりを教育的な視点から考えていく授業です。

具体的には、「音楽教育の思想と歴史」、「音楽と発達」、「音楽・言葉・身体」、「音楽の教授・学習過程の実際」、「授業・レッスン研究」などをテーマとして、教員の講義、学生による発表、指導実践を組み合わせながら、音楽教育の意義や基礎的な内容について深めていきます。

47

社会と共創する

芸術文化環境論 I

音楽学部開講科目

授業を行う先生：伊志嶺絵里子

開講時期・時間：前期 木曜日 3時限

芸術にはどのような力が宿っているのでしょうか（不要不急なものでしょうか）？

その力は個人に、社会に何をもたらす（かき乱す）のでしょうか？

このような問いに対する自己の考えを深めるためには、芸術が置かれている複雑な環境をメタな視点で捉えること、そして芸術と社会の接続面を丁寧に見つめることが求められるでしょう。

本授業では、国、地方自治体、アーツカウンシル、企業、アート NPO 等、様々なセクターが行っている芸術支援制度（主に音楽分野）の目的や内容について学びます。また、地域社会に寄り添いながら展開している芸術活動の様々な事例を紹介し、そこで生じる変化やジレンマに焦点を当て、芸術の貢献要素を模索します。

48

社会と共創する

芸術と社会

音楽学部開設科目

21 世紀の社会が求める創造性とは（企業編）

授業を行う先生：熊倉純子

開講時期・時間：通年 集中講義

昨今、世界的に企業の芸術に対する注目度が著しく上がっています。

しかし、企業が求める「創造性」とは、どのようなものなのでしょうか。はたして、今日の藝大生の創造性は日本企業の求めるものにマッチするのでしょうか。

本授業は、複数の日本企業の様々な部署で働く第一線の人々を講師に迎え、藝大の様々な学科・専攻から集まった学生とワークショップ形式で対話を試みるものです。学生は、参加企業から出される課題を選び、グループワークを通じて解答となる具体的なプランを考え、提案を行います。

授業を通じて、まずは「社会に媚びずに発想する」力を養い、それを「伝える」方策を模索する経験値を培うことを目指します。

49

社会と共創する

「障がいとアーツ」研究

演奏芸術センター開講科目

授業を行う先生：高橋幸代、楠田健太、松岡あさひ

開講時期・時間：通年 水曜日 4時限

多様性が尊重される社会において、芸術の果たす役割とは何でしょうか。

本授業では、障がいのある人と芸術との関わり、その表現に触れながら、創造的な視点で芸術の新たな価値を創出し、多様な人が“共に生きる”社会の実現を目指します。

福祉施設や特別支援学校でのワークショップ、障がいのあるアーティストとのコラボレーションなど、様々な出会いの中で、受講生が主体的に考えて企画し、分野を超えて協働し実現していきます。

また、視覚障がい者のアテンドや手話通訳の講習と実践、ゲスト講師を招いて芸術の特別支援教育や国内外のインクルーシブアーツなどについて学び、誰もが等しく芸術を享受し表現できる環境づくりについても考えます。

50

社会と共創する

日本の芸術・文化を英語で学ぶ

グローバルサポートセンター開設科目

授業を行う先生：江上賢一郎 ほか

開講時期・時間：前期・後期 水曜日3限

今日のアーティスト・研究者には、自国の文化芸術を多様な視点から見つめ、それを異なる国の人々に明瞭に伝える力が求められています。本授業では、東京藝大の各専攻分野を軸に日本の芸術・文化を英語で学び、各分野の入門・概論的な知識習得を目指します。

国内の学生には、自国の芸術・文化について英語で改めて学び直す機会を提供します。留学生に対しては、留学中に自分の専門と異なる分野を知り、学ぶ機会を提供します。

本学教員を中心とした各専門（美術、工芸、彫刻、現代文化、英語、建築、等）に関する講義に加えて、最後の2回は受講生による個人発表（私が紹介したい日本の芸術・文化）の時間を設けます。

社会と共創する

美術学部開設科目

とびらプロジェクト

東京都美術館と市民と連携してミュージアムを拠点に学びを共有するプログラム

東京藝術大学と東京都美術館と市民が連携し、美術館を拠点にアートを介してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクト「とびらプロジェクト」。広く一般から集まったアート・コミュニケータ「とびラー」と、学芸員や大学の教員、そして第一線で活躍中の専門家がともに美術館を拠点に、そこにある文化資源を活かしながら、人と作品、人と人、人と場所をつなぐ活動を展開しています。

東京都美術館と、東京藝術大学がそれぞれの特性を活かしながら2つの組織が連携しており、講座でも藝大生ととびラーが学びを共有し交流しています。

51-1

アクセシデザイン基礎

開講時期・時間：通年 不定時

第1回目は6月30日（日） 最初にオリエンテーションを別途設けます。日時は受講者に案内します。

具体的な社会課題に関わる状況・活動を知る事により、文化資源や美術館にアクセスすることが難しい人が利用するために必要な支援を考えます。講座を通してそれぞれの創作活動を届ける相手や社会について考えるきっかけとなることを期待しています。

講座のテーマとして、障害者差別解消法、障害の社会モデル、合理的配慮、ろう文化、多文化共生、子どもたちの貧困、超高齢社会、認知症といった様々な社会課題や共生社会を考える上で知っておきたい事柄を扱います。専門家のレクチャーと、様々な世代が活動するとびラーと共に意見交換をしながら講座は進んでいきます。

希望者は必ず、初回オリエンテーション授業に出席するようにしてください。

51-2

美術鑑賞実践演習

開講時期・時間：通年 不定時

第1回目は6月24日（月） 最初にオリエンテーションを別途設けます。日時は受講者に案内します。

対話を通して作品を楽しみ、鑑賞を深める活動について学びます。鑑賞者が自由な発想で、主体的に鑑賞できる機会をつくるにはどうしたらよいか、「鑑賞の場を作る側」の視点を持ちながら考えていきます。

授業は、Visual Thinking Strategies（対話型鑑賞）を全8回で学びます。様々な世代が活動するアート・コミュニケータ（愛称 とびラー）と一緒にワークショップ形式で進めていきます。

希望者は必ず、初回オリエンテーション授業に出席するようにしてください

DOOR「ケア×アート」をテーマに社会人と一緒に学ぶプログラム

「Diversity on the Arts Project」(通称: DOOR) は、「ケア×アート」をテーマに、「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプロジェクト型の授業です。

講師として現代の社会に生きづらさを感じている当事者、社会との関わりを持ち、表現を行なうアーティスト、現代の福祉をより広い視野で捉え直す多様な分野の専門家を迎え、開講します。

※本授業は、美術学部の学生が対象となります。

52-1 ARTs × SDGs プラクティス

開講時期・時間: 通年 開講日時はシラバスを参照してください

「SDGs とアート」をテーマに扱う授業です。SDGs が掲げる持続可能な 社会を実現する上での課題を見つけ出し、創造的な解決策をアートの可能性を交えながら思考します。SDGs をより多角的に、より深く知るために、様々な活動をしている実践者を講師に招き、共に考えます。

52-2 ダイバーシティ実践論 ※ケア原論と一緒に履修が必要

開講時期・時間: 通年 月曜日 18:20 ~ 19:50

生きづらさを抱える当事者や、当事者と関わりながら活動を行っている実践者・表現者との対話や、現代の福祉をより広い視点で捉え直す様々な領域の専門家を講師に迎えて、オムニバス形式の講義を行います。これからの社会で創造されるべき共生社会を考察し、実践につながる思考を編んでいくことを目指します。

52-3 ケア原論 ※ダイバーシティ実践論と一緒に履修が必要

開講時期・時間: 通年 月曜日 18:20 ~ 19:50

福祉の歴史やケアの基礎的な考えを知り、わたしたちを取り巻く環境が抱える問題について理解を深めます。また、ケア・アートの両領域における創造的な取り組みを参照することで、現代のケアとアートの接点について考えます。アートを介し福祉をより多角的な視点で捉えてゆくことを目的とします。

52-4 DOOR プログラム実践演習

開講時期・時間: 通年 開講日時はシラバスを参照してください

多様な人々がともに過ごす場をつくることを目指し、作品・ワークショップ等の制作や実践を行います。また、社会の中で見過ごされがちな 事象に目を向けてきたアーティストの眼差しに触れ、学びを深めます。

52-5 ケア実践場面分析演習

開講時期・時間: 通年 開講日時はシラバスを参照してください

実際の福祉の現場へ足を運びグループワークなどで共働しながら、ケアの現場をより社会に開かれた場とする方法を考察します。福祉の現場に、自らの活動を作り出すための実習です。

52-6 ドキュメンタリー映像演習

開講時期・時間: 通年 開講日時はシラバスを参照してください

映像制作・ドキュメンタリーの技法を基礎から学び、テーマに沿ってグループで映像制作を行ないます。制作プロセスを介し、映像のリテラシーや多様な人々との関わり方、振る舞い方をとらえることを目指します。

52-7 人間形成学総論

開講時期・時間: 集中講義

人間の性質や能力を育て形成する「教育」について考えます。具体的には、現代社会の教育と学びの問題から出発して、人間形成の基本原則について学び、最後に一生涯を通じた学びの基礎的理解を身につけることを目標とします。

52-8 アートプロジェクト実践論

開講時期・時間: 集中講義

昨今、全国各地で様々なアートプロジェクトが展開されていますが、今後 アートプロジェクトはどのような方向性を持って進んでゆくべきかという問いについて、実践的立場から検証と考察を行うことを目的とした授業です。

52-9 ケア×ソーシャリー・エンゲイジド・アート実践論

開講時期・時間: 開講日時はシラバスを参照してください

地域社会や住民とともに制作や活動を実施するソーシャリー・エンゲイジド・アート(SEA)の実践者をゲストとして招き、事例を掘り下げながら、SEAに必要な思考や手法を身につけ、福祉施設や地域におけるアートを介したコミュニケーションについて探求します。

学びとこれからの幅を広げる藝大各センター

芸術情報センター

AMC Art Media Center

芸術情報センター（AMC）は、「教育、研究、創作活動の支援」「情報サービス基盤の管理・運営、情報セキュリティ対策」「研究、創作活動の拠点」の三つの役割を持っています。

学内共用施設としてセンターの情報システムを整備運用し、教育研究に活用するとともに、上野・取手・横浜・千住を結んだキャンパス情報ネットワークの適切かつ効率的な管理運用を行い、本学における情報化を推進しています。

創作には欠かせないデジタルな表現を、撮影、収録から、 編集、ファブリケーションまでトータルにサポート

芸術情報センター（AMC）の場所ですが、上野キャンパス美術学部敷地内の総合工房棟、その2階にあります。施設内には、AMC ラボと呼ばれる空間があります。ラボの中では、皆さんの教育、研究創作活動の支援ということで、大型の機材をそろえています。大判プリンターやレーザーカッターなどのファブリケーション機材であったり、映像編集用の機材であったり、サウンドスタジオもあります。どの設備も芸大の学生であれば、無料で利用することができます。

その場で機材を使うだけでなく、機材貸し出しも行っています。どこかで、展覧会を行う際や、演奏会に使いたいというような場合に、カメラやプロジェクター、モニターなどいろいろなものを借りることができます。貸し出しも無料です。

また、施設内には、コンピュータールーム、AMC 演習室があります。演習室では主に AMC 開設の授業が行われます。授業以外の時間帯には、学生はパソコンを自由に使用できます。ハイスペックなパソコンで動画の編集をしたり、楽譜のスキャンもできます。

以上が AMC の施設と教育研究活動の紹介になります。所属にとらわれず、東京藝術大学の学生と教職員の創作活動を支援し、誰でも自由に使える施設として、みなさんにとって居心地の良い場所になることを目指しています。いつでも気軽にお越しください。



AMC ホームページ

<https://amc.geidai.ac.jp/>

53

デジタルの表現をみにつける

イメージ演習 A

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：牛島大悟、早川翔人

開講時期・時間：前期 水曜日 4・5時限

本学の取り組みである「東京藝術大学アート DX プロジェクト」に伴い、芸術情報センターに導入された最新機器について、演習形式で学んでいきます。

具体的には、VR ヘッドセット、3D スキャナ、3D カメラといった機材を、実習を通じて体験していきます。

また後半では、ゲームエンジンによるウェブアプリケーションの開発までを行います。学生のみなさんには、制作した作品を発表する機会も設けます。

授業は、芸術情報センター演習室にて対面で行われます。抽選申し込み方法は初回の授業にて行うので、希望者は必ず初回授業オリエンテーションを出席するようにしてください。

54

デジタルの表現をみにつける

イメージ演習 B

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：秋田亮平

開講時期・時間：後期 火曜日 4・5時限

本授業では、RealityCapture というソフトを用いて、フォトグラメトリという複数枚の画像から高詳細な 3D データを生成する方法を学びます。後半では、3D データを活用する方法として、メタバースプラットフォームでの公開やデジタルファブリケーションによるアウトプットを体験します。最終的には自分の興味のある方法で、3D データを使った作品を制作してもらいます。

授業は、芸術情報センター演習室にて対面で行われます。使用する PC の関係上、少人数で行うため、応募者多数の場合は抽選となります。抽選申し込み方法は初回の授業にて行うので、希望者は必ず初回授業オリエンテーションを出席するようにしてください。

55 デジタルの表現をみにつける インタラクティブ・ミュージック I

授業を行う先生：仲井朋子
開講時期・時間：前期 木曜日 3時限

芸術情報センター開設科目

デジタル・メディアを活用し、サウンドを作品の要素とする制作に取り組みます。
また、実際の作品制作・発表を通じて、メディアにおける「音」の役割について考えることができます。

授業では、DAW ソフトである Logic Pro などを使用します。

抽選申し込み方法については、初回授業にて行いますので、希望者は必ず出席するようになしてください。

56 デジタルの表現をみにつける 芸術情報演習 I

授業を行う先生：松川祐子
開講時期・時間：前期 水曜日 3時限

芸術情報センター開設科目

Adobe InDesign を使った、紙メディア制作演習です。

この授業では、画像やフォントなどのデジタルデータや、印刷物などについての一連の知識と、InDesign の操作スキルを習得し、名刺や冊子などの紙メディアの制作ができるようになることを目指します。

前半で、基礎知識の講義とハンズオンを並行して行い、名刺などの小課題を通して制作の基礎を身につけてもらいます。後半で、その応用として、冊子制作を行います。その制作を通して、メディアのテーマ設定・コンテンツ制作・レイアウト・出力・製本まで一通り経験してもらいます。

この授業を通して、みなさんそれぞれの創作活動に必要なツール（名刺や DM、ポートフォリオなど）が、効果的に制作できるようになり、そのことで活動の幅が広がることを期待しています。

57 デジタルの表現をみにつける 芸術情報演習 II

授業を行う先生：加藤大直
開講時期・時間：前期 火曜日 4時限

芸術情報センター開設科目

ビジュアル表現、アニメーション、プロダクト開発、建築に至るまで幅広く扱われている 3D 技術を習得します。

どの分野にも対応できるよう、前半部では 3D の基礎概念と技術を学び、後半では各分野に分けた技法の習得、制作を開始します。

主な使用ソフトは、CAD である Fusion360 と 総合 3D ソフトウエア Maya ですが、各受講生によってソフトウエアをプラスする場合もあり、昨今の様々な CAD、3D における技術ニーズに対応できる授業です。

基礎から始め、芸術情報センターの 3D プリンターやレーザーカッターを利用しながら、最終的に製品プロトタイプと 3D としてメディアに実装できるレベルまで習得します。

58 デジタルの表現をみにつける 芸術情報概論 A（前期）・B（後期）

授業を行う先生：中尾根美沙子、井上愉可里、望月玲奈
開講時期・時間：前期（A）・後期（B） 金曜日 5時限

芸術情報センター開設科目

教育現場はもちろん、社会でアートを活用したワークショップが求められています。そのワークショップの理論と実践が学べる授業です。

ワークショップの作り手として意味と仕組みを説明できることや、ワークショップを実際に作る際の基本的な手順などを提供します。

ワークショップを実際に企画・運営することを想定している人や、学校の授業でワークショップ型の授業を多く取り入れたいと思っている教職志望の人にも役に立つ授業なので、自分でやることを想定しながら受講すると大きな成果が上がります。

59

デジタルの表現をみにつける

ゲーム制作演習1（前期）・2（後期）

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：薄羽涼彌

開講時期・時間：前期（1）・後期（2）月曜日 5時限

ゲームの制作を通して、芸術としてのゲーム、表現手法としての可能性について考察します。制作環境としてゲームエンジン Unity を用いますが、順を追って進めていくのでプログラミングの予備知識がなくても履修可能です。基礎の習得と、それぞれが自分のやりたいことへ向かっていくための応用力を養うことを目指します。

学生のみなさんには、前・後期ともに、制作したゲームを発表する機会を設けます。

前期授業「ゲーム制作演習1」と後期授業「ゲーム制作演習2」の内容は同様のため、後期から新しく履修することもできます。

60

デジタルの表現をみにつける

コードとデザイン

芸術情報センター開設科目

テクノロジー表現のはじめの一歩

授業を行う先生：松浦知也

開講時期・時間：前期 金曜日 4・5時限

この授業では、コンピューターを積極的に制作に取り入れるための様々な考え方について、実践を通じて学びます。

今日、映像をつくるにしても、音楽をつくるにしても、もはやコンピューターを使わずに制作を完結させることの方が大変です。

しかし、コンピューターの世界は本来マウスやキーボード、ディスプレイに閉じたものではありません。電子工作で光やモーター、スイッチなど様々な入出力を扱ったり、デジタルファブリケーション機器を用いてデータと物質を相互に変換できるようになれば、現実世界の様々な要素で遊べるようになります。

こうした実践を通じて表現の引き出しを増やしつつ、テクノロジーを主体的に使えるようになっていきましょう。

61

デジタルの表現をみにつける

メディアアート・プログラミングI

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：田所淳、森山朋絵

開講時期・時間：前期 金曜日 3・4時限

メディアアートのためのプログラミングの技術を駆使して、実践的な作品制作のための技術とコンセプトメイキングについて学ぶ。個人制作をベースにししながら、立案した作品テーマやコンセプトを掘り下げて作品として制作し展示する。具体的には現在多くのアーティスト達や制作現場で実際に使用されている制作環境である TouchDesigner をメインの開発環境として、制作環境の基本操作から始めて最終的に自身の作品を制作できる技術の習得を目指す。

62

デジタルの表現をみにつける

メディアアート・プログラミングII

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：松浦知也

開講時期・時間：後期 金曜日 4時限

この授業では、様々なプログラミングを使う実践を通して芸術表現とテクノロジーの関わりを批判的に考える力を身につけます。例えば、コンピューターに詩を書かせたり、Web上をクロールさせたり、オリジナルのプログラミング言語を作ってみたり。

コンピューターは必ずしも便利な道具として活用するためだけのものではありません。あえて間違えた / 不合理的な / 無駄な使い方をすることで、技術がどう社会の中で扱われているかを知るヒントになります。授業で得た知識はすぐには役に立たないかもしれませんが、逆に特定のツールに依存しない、テクノロジーを用いる表現に取り組むための陳腐化しない考え方を身につけたい方の履修を期待します。

プログラミングの経験は問いません。またメディアアート・プログラミングIを履修していなくても履修できます。

63

デジタルの表現をみにつける

デジタル・サウンド演習

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：仲井朋子

開講時期・時間：後期 木曜日 3・4時限

ゲームの制作を通して、芸術としてのゲーム、表現手法としての可能性について考察します。制作環境としてゲームエンジン Unity を用いますが、順を追って進めていくのでプログラミングの予備知識がなくても履修可能です。基礎の習得と、それぞれが自分のやりたいことへ向かっていくための応用力を養うことを目指します。

学生のみなさんには、前・後期ともに、制作したゲームを発表する機会を設けます。

前期授業「ゲーム制作演習1」と後期授業「ゲーム制作演習2」の内容は同様のため、後期から新しく履修することもできます。

64

芸術の広がりを知る

現代芸術概説

音楽学部開設科目

授業を行う先生：卯城竜太

開講時期・時間：後期 水曜日 5時限

今のアートシーンで交わされる議論をテーマに、生徒たちにその論点を展示として表現してもらいます。

美術史は一人の視点ではなく「複数性」の中でこそ理解されるべきもの。アートは知識を前提としますが、同時に、無知や偏見があっても（自分もそうでしたが）、自分が信じる芸術をもとに誰もが語る資格があるものです。ともに社会を解釈し、アートの学びを更新することを目的とします。

藝大リベラルアーツ（教養科目）ガイド 2024

GEIDAI LIBERAL ARTS GUIDE 2024

令和6年（2024年）3月31日

発行者：東京藝術大学教養教育センター

東京都台東区上野公園1-2-8

電話番号 050-5525-2483

クリエイティブディレクション・編集：岡田智博 東京藝術大学教養教育センター

デザイン：木下真彩

© 2024 Liberal Arts Center, Tokyo University of the Arts

本ガイドで掲載した各科目の履修内容の詳細については、大学WEBサイト上にあるシラバスを参照してください。



東京藝術大学
教養教育センター

TOKYO GEIDAI
LIBERAL ARTS CENTER

